北海道医報

ISSN 0913-0217　2025.6.1. 第1281号

発行人　北海道医師会長　松家　治道
編集人　情報広報部長　橋本　洋一

発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp/
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp　頒価 1 部 275円（税込）

季節風

警世の言葉

―不満足なソクラテスへの道―

情報広報部長　**橋本（はしもと）　洋一（よういち）**

　世界の政治、経済がアメリカ合衆国第47代大統領トランプ氏の再登場によりかき回されている。数え切れない大統領令の乱発に労力を費やしている姿をみて、米国大統領の権力の大きさをあらためて実感させられた。その中に２０３９年公表されるとされていたケネディ大統領暗殺事件に関する情報を前倒しで公開することが示されたのは注目に値することだ。２０３９年までは、フレイルに陥ることなく、なんとか生き抜いて自分の眼と耳で直接、公開される情報に触れたいと思ってきたからである。

　そのトランプ氏がアメリカ第一主義の観点から、様々な政策の変更に舵をきろうとしている。大統領着任後24時間以内に戦争を終結させると息巻いていたウクライナ問題も当事国を差し置いて、ロシアにとって一見すると有利にみえる態度で直接交渉しようとしたり、独立国家カナダをアメリカの51番目の州にと放言したり、防衛費をＧＤＰの５％に引き上げる要求をＮＡＴＯ加盟国に求めたり、自国の国益優先を露わにした言動が目立つ。トランプ流の荒療治に世界は右往左往させられている。日本に関して言えば、日米安保の不平等さについての言及は理にかなった側面を持ち合わせていることは事実だ。議論の余地のない乱暴な側面と理にかなった側面とを混ぜこぜにしたトランプ流の方法論は、なかなか重い課題を突きつける。

　デンマークの自治領であるグリーンランドを取得するために軍事行動を匂わせたり、アメリカのすべての船舶について、パナマ運河とスエズ運河の交通権の無料化を迫ったり、覇権国家ロシアと変わらない態度は、米国と西欧の分断を引き起こし、西欧の独立心の醸成には大いに貢献することになるだろう。

　アメリカ屈指の有名私立大学ハーバード大学とトランプ政権が対立し、どんどんとエスカレートしている。トランプ氏はハーバード大学を「極左の機関」とＳＮＳで決めつけ、『民主主義に対する脅威』であると非難した。トランプ氏が民主主義という言葉を使うことに違和感を感じないわけではないが、大学人のほとんどが（ハーバード大学で99％、イェール大学で97％）民主党に政党登録していることに業を煮やしたのかもしれない。

　トランプ氏はパレスチナ自治区ガザ地区の戦闘でのイスラエルの度を超えた報復攻撃を非難する学生デモに対して反ユダヤ主義とレッテルを貼り、大学にデモの取り締まり強化を求めた。さらに『多様性・公平性・包摂性（ＤＥＩ）』を重視する大学にその取り組みの廃止も迫ったが、この要求に対してガーバー学長は、毅然とした態度を貫いて『大学の自治権侵害』であるときっぱりと拒否する学長声明を表明した。トランプ氏は報復として約22億６千万ドル（約３２００億円）の財政支援の凍結を決めたが、この制裁的措置に抗することができたのは、大学自治権への強い思いに加えて、約５３２億ドル（約７兆６千億円）という巨額の基金が存在することと毎年10％以上の運用益を出していることがその背景にある。

　『肥った豚になるよりは、痩せたソクラテスになれ』これは１９６４年３月に東大卒業式で大河内総長の式辞原稿に記載された言葉である。元は哲学者ジョン・スチュアート・ミルの『満足した豚であるよりは不満足な人間のほうがよく、満足した愚か者よりは不満足なソクラテスのほうがよい』のアレンジかと思うが、最高学府を出た君たちは満足した豚になるな、そうではなく世を憂う精神生活の活発な社会人になれという思いがあったのかもしれない。満足した豚からなんとか脱却できたと思ったが、不満足なソクラテスになる道は遙かに遠く茨だらけだ。国が異なっても、知の巨人たちはつねに警世の言葉を発され、その言葉に私たち凡人は真摯に耳を傾け、あるべき方向に向かって歩み続けなければならない。